

## 第3回 第3次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要

### 《会議概略》

日時 平成27年8月31日（月）13時30分～15時35分

場所 清瀬市コミュニティプラザ202室

出席 赤川都 岩崎雅美 内山勇 大久保由里 小川和夫 小俣みどり 小山利臣  
兼田則子 木下八重 近藤優美 佐竹治男 田上明 菱沼幹男 丸山安三  
麦倉稔

事務局 森原弘成 土金百合子 波澄守 星野孝彦 富田千秋

社会福祉協議会インターン生：1名 社会福祉協議会実習生：3名 傍聴者：1名

### 1. 開会

社会福祉協議会事務局長より

### 2. あいさつ

社会福祉協議会会長より

### 3. 第2回清瀬市民地域福祉活動計画の概要について

- ★ 事前配布資料「第2回清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要（案）」の議事録内容について説明

*訂正や意見がないかを諮ったところ、異議なく了承される。*

### 4. 福祉のまちづくり懇談会の実施報告

- ★ 資料番号1～4に基づき説明

委員長 小中学生が参加できたのは良かった。懇談会に参加された委員の方の感想をお聞きしたい。

委員 会長のあいさつで「20年前と変わった」との話があった。20年前に住んでいた中里団地の今はどうなっているんだろうとの思いで、中里地区の懇談会に参加した。20年前、中里団地で平成5年から10年にかけての建て替え時に自治会長をしていた。当時の名簿を見返したところ、480世帯、1,200名前後が住んでいて、全体が大きな家族のようだった。赤ちゃんが産まれたことやお年寄りに何かあったことといった知らせはすぐに入ってきた。だが、現在そういったことはない。中里団地は陸の孤島になったよう。

懇談会に参加した中里団地の住人は1人で、昔の知り合いには会えなかった。ただし、懇談会の数日後に開催された地域まつりには、カラオケだけで70人あまりが参加していた。その1人に「懇談会誰も来なかったね」と言ったところ、「懇談会あったの？」と驚かれた。せめて自治会の三役には声をかけてほしかった。

20年前の中里の自治会名簿を見ると、氏名も電話番号も全て載っている。だが、現在住んでいる野塩では自治会員が700世帯いるにも関わらず、自治会名簿も階段名簿もない。一部の役員の情報が分かるのみである。週2回活動している老人会「むらさき会」には77名の方が入っており、体操教室には約40名の方が来ている。だが、夫婦で来ているのは私たち2人だけで、ほとんどの方は1人で来ており、お互いの名前が分かっていない。また、老人会も名簿を作っていない。そういう意味では、今回の懇談会で名札と名簿を作ったのは良かった。初めて懇談会に来た市民の方は「名札をつけてください」「名簿に書いてください」と言われてドキッとしたかもしれないが、家に帰った後には同じグループの人の名前を思い返しているはずである。

地域差ということでは、中里は所沢駅行か清瀬駅行のバスしかない。きよバスを回してほしい。一方、野塩には急な坂が2つある。「坂の途中にベンチを設置してほしい」と当時の市長に言ったところ、すぐに設置された。懇談会やアンケートを通じて、こんなにも多くの市民の声が集まった。何分の1でも反映し、実行し、地域に花を咲かせてほしい。

委員

中清戸に住んでいるが、野塩・梅園の懇談会に参加した。高齢の方の参加が多く、坂やゴミ出しが大変という意見が多かった。私の地域では高齢の方とお会いする機会もあまりないため、普段自分が感じていない問題を聞くことができた。また、自治会の方も出席していたが、「子供のいるお母さん方から仕事があるからという理由で自治会の役を引き受けてもらえず困っている」という意見があった。確かにそういう方もいるなと思ったが、仕事している人の全てがそうでもなく、参加していないから面白みが分からない部分もあると思うし、お子さんが成長されてから学校の役員になって「楽しかった」という人もいたことを話させてもらった。

高齢者の方からは「中学生くらいになった子どもたちが高齢者のお宅に行って力仕事などの手伝いをしてもらえるといい」という声があった。そうした多世代を繋ぐ場があるとよいのかなと感じた。

全体としては自治会の上の方の立場の方の参加になりがちなので、どうすれば困っている方の声を直接聞くことができるのかという思いが残った。

委員

松山・竹丘の懇談会に参加した。行政の立場からグループワークを覗かせていただき、地域のコミュニケーションや災害に対する関心が高いことを知った。今回は地域の福祉関係者の参加が多く、福祉関係者も地域の問題に関心を持っていることが分かった。施設などではサロンの場として場を開放しているような取り組みも続いており、そうした考えが広がっているのだと感じた。

買い物、子どもの遊び場、一人暮らし、空き家対策、コミュニケーションなどが主要な課題として挙げられていたが、清瀬市の問題として自治会が少ないというのが街づくりのマイナス面になっており、今後行政の立場として真剣に考えなくてはならないとも感じた。

懇談会は地域交流の場になったとも思う。計画のためだけでなく、定期的に懇談会を実施し、住民の声を拾い上げていくことが大切であると思うので続けてほしい。

委員 元町・上清戸の懇談会に参加した。社協と関わりのある方の参加が多かったようだったが、普段社協が取り組んでいる事業の守備範囲とは異なるまちづくりのハード面、防犯や安全に関する意見が多かった。ハード面を変えるために新しいものを作るという発想だけではなく、つながりや活動を作っていくという考えもあり、そうした面では社協の活動の可能性があると感じた。

また、懇談会は継続して開催していくことを発信していたのは良かった。話し足りなかったことをまた話そうかなと参加してくれる人もいると期待できると思う。時間的にやむを得なかったのかもしれないが、名前や自己紹介だけでなく、どういう思いで懇談会に参加したかも聞いてみたかった。参加者同士がどういう思いで参加したかを知り合うことで共有できる部分もあったのではと感じたので、今後の懇談会ではそうした場も作れば良いと思う。

委員 どなたでも参加の土曜と野塩・梅園の懇談会に参加した。参加する前はディスカッションだと思っていたが、KJ法と聞き、物足りないのではないかと感じていた。でも、やってみると参加する人はディスカッションに慣れていない人もおり、ゆっくりと考えながら話し合いを進めることができ、みんなが意見を言える KJ法は素晴らしいやり方だと思った。また、色々な立場の方が来ており、ある人が「困っているからこうしてほしい」ということに対し、別の人が「そうされては困る」と言うことがあった。お互いが「そうされては困る」という部分には気づかないものなのだなと思った。一つに決めて支援というよりも、支援するということは多様な人々に援助していくものなんだなと感じた。

委員 松山・竹丘の懇談会に参加した。非常にたくさんの方が来ており、部屋がぎゅうぎゅう詰めだった。1グループ8～9名で意見交換し大変だった。片方で真面目に KJ法を進めているかと思えば、片方では違う話が進んでいたりした。声も聞こえなかった。もっと広い会場でゆっくりやりたかった。

参加の方には視覚障害の方がいて、「皆さん関心があるんだな」と感じた。KJ法が初めての方は大変な部分もあったと思う。意見交換がじっくりできず、すぐ次の話題に移ってしまう。ある事柄についてじっくり話し合える懇談会があっても良い。次回は倍以上の広さの部屋を確保していただきたい。

委員 中里の懇談会に参加した。同じ清瀬に住んでいるのに、住んでいる地域によって要望や考え方は違うんだなと感じた。一軒家なので自治会を作ってコミュニケーションしていきたいという意見もあれば、自治会は必要ないという意見もいて、思うように活動ができないという話もあった。

中里は参加者が少なかったが、何かの役に立っていきたいという思いを感じられた。市民がもっと色々な場面で活躍できる場はあるはず。

今日も認知症の2名の方からお電話があり、「財布や洋服がなくなったから

来てほしい」と言われた。私は知識があったのですぐ包括に連絡し、対応していただいた。一人一人の市民の方に、困りごとがあればすぐに相談できる窓口と情報網があるということを市民の方々に広げていくと、清瀬に住んで心強いと思えるようになるのではと感じた。

副委員長 懇談会を開けたことは大きな前進。計画策定に欠かせないものであるが、懇談会で出てきた意見はあくまで一部の住民の意見。懇談会はニーズ把握よりもニーズ共有の意味合いが強い。自分が感じていない意見を聞いたこと、思いを語れたこと、それらを集まった人たち同士が共有できたのは良かった。

ニュースを作って地域に返すことは重要で、次の活動への動機付けとなる。ただ、懇談会ばかり開いていて「できたらいいね」と止まっているようでは、参加者は減っていく。次に大事なのは、今回の計画の大きなポイントにもなるが、小地域ごとの「地区社会福祉協議会」のような住民組織を立ち上げていくことができるかどうか。課題解決に向けて「こんなことが必要」と取り組んでいく組織が必要。そうしないと、この懇談会がだんだん息切れしていくだろう。

そして、自治会がない地域では自治会に代わる組織という考えで立ち上げていくという視点が必要。懇談会はその第一歩になったと思うので、今後のビジョンを持っていることが大事。今回の懇談会全体の内容を報告するための座談会があっても良いが、できれば次回の懇談会は、「地域で組織を立ち上げていくための準備委員会を作っていきますか」という投げかけができるとよい。いきなり組織を立ち上げてとなるとハードルが高くなるので準備委員会という形で有志の方に集まっていたら、こんな人にも入ってもらいたいよ」というような自分たちの地域に望ましい会を作っていければよい。一年程度かかっても構わないので、組織が立ち上がったら、その組織で改めてニーズ調査を行うということも必要で、できれば全世帯向けのアンケート調査があるといい。世帯の人数分の調査票を用意し、お一人お一人がどんな生活課題を抱え、どんなことなら地域のために協力できるかを把握すると担い手の掘り起しにもなる。地域によって人数が多ければエリアを区切ってやっても良いと思うが、地域住民のニーズに応えた組織化が必要。そうでなければ準備委員会の人たちがやりたいことをやる組織になってしまう。地域の方たちが自分たちの力で地域の問題を把握する力をつけていくことができると良い。このプロセスを経て人口約7万人の鶴ヶ島市では8つの小学校区のうち4地域で立ち上がっている。また、人口25万人の府中市でも小学校区ごとに進め、今年度新たに1地域で立ち上がるそう。懇談会だけで終わってはいけない。そんなイメージで取り組みを進められたら良いと思う。

## 5. 福祉のまちづくりアンケート報告

### ★ 資料番号5及び資料番号6に基づき説明

委員長 このアンケート調査の集計にあたったインターン生から感想を聞かせてほしい。

インターン生 3点が印象に残った。1番目は「いつでも何でも相談できる窓口」。土日でも時間外でも相談でき、どこへ相談してよいかわからないという人が繋がる窓口があると良い。2番目には「個人情報を取り扱うこと」。個人情報の壁により周囲の方が支援を必要とする人の情報を持っていなかったり、支援に関われないということが見受けられた。3番目に「子どもが思い思いに過ごせる場」。6年生のアンケートにも一番望む声が多く、遊びという視点では、外で遊べる場が十分になく屋内での遊びになりがちである。子どもの成長や体力向上には遊び場が必要。一方で静かに思い思いに過ごせる場を求める声も多いので、そうした子供たちに応える場があると良い。

委員長 アンケート調査について意見や感想を出し合う前に、資料番号7で地域懇談会とアンケートについて書き出し整理されているので、その説明を事務局にお願いしたい。

★ 資料番号7に基づき説明

委員長 地域懇談会とアンケートの報告がでたところで自由に意見や感想を出してもらいたい。

委員 懇談会を今後どのように動かしていくかということが今後の大きなテーマになるかと思うが、一つ目には今回懇談会に参加された層をどう見るか。二つ目に懇談会に参加する方の裾野をどう広げていくかということ。三つ目に具体的にどのような活動をしていくかで考えていきたい。

懇談会の参加者を見てみると118名のうち90名が満足したと答えている。話せて満足した層のほか、今後この懇談会をどう活かしていくのかという思いを持ち懇談会の報告をしてほしいという層、解決のために活動している層がいた。懇談会を継続していくには準備委員会からという考えが示されたが、ここにある既に活動をしている層であったり、地域の自治会の三役であったり丁寧に根回しをしながら進めていく必要がある。自治会が少なかったり、若い層で役員などに関われないという人もいるが、子供が中学を卒業したら関わっていただけるのではとの声もあり、そうした部分に着目して縦の層から関わっていくことも考えられる。また、既存の円卓会議や青少協などの似たような地域組織の場と横の層からニーズのすり合わせも必要だろうという気がする。今後どのように地域懇談会をデザインしていくか考えていく必要がある。

次にこれまで社会福祉協議会に関わっていない層をどう巻き込んでいくかを考えなければならない。例えば「ゴミ出し」などが地域課題になっているが「お片付け講座」のような切り口から始め、ゴミ出しに困っている人が地域にはいることを理解してもらってもよい。防犯などの課題も出ており小中学生のための「交通安全講座」、高齢者でも役所からの手続きが分からないとの声もあるので「手続き講座」などを実施するのも良い。今回のニーズ把握では福祉施設も地域の力になりたいとの考えも見えたので協力してもらえると良い。そうした地域に出向く形の講座を実施していくことで、これまで社会福祉協議会と関わ

っていなかった層や地域に関心のなかった層と関わっていけるのではと考えた。

具体的にどういう活動をしていくかという点では、アンケートでは家計のやりくりが大変との声が目立ったが、懇談会では、買い物、近隣との関わりなどが課題に挙がった。5年間の活動計画の中で優先して取り組むことは何なのかを具体的に考えていけると良い。買物が大変という声に対しては、「ネットで対応できる」との声も懇談会で上がったが、それができない層を支援する活動ができてよいし、商工やJAなどと話し合い、学校や地域レベルで行われる少年野球やサッカーの場で販売の場ができていくと多世代が知り合う場にもなると思う。次回以降の委員会では具体的な活動について考えられていくと良い。

委員 懇談会の中でも付き合いを好まない層の人がいる。私の住む120世帯位の自治会でも数年前に10数世帯が一度に抜けてしまったこともあった。意思をもって積極的に参加したくない住民もいる。サロンをやっていて目の不自由な方を何度も誘うと迷惑に思われているようにも感じる。懇談会に出てくる人はいいが、出てこない層の人をどう考えていいか。やる気のある人だけがやって、上っ面を滑るような懇談会になっていいのか疑問がある。積極的でない人も入っていける活動にできないかと思う。そういう人も引っ張り込むべきなのか、無理に引っ張り込まなくてもいいのか方向性を出すときに考えられればと思う。

委員長 今回の意見は大事な論点で、必ず出てくる問題。次回以降の委員会で議論を深められればと思う。

委員 出てこない方をどうやって出すか、それはいつも考えているが、話を聞いてみるとそれぞれに出られない事情がある。DVを受けていて知られたくない、かつて近所関係でトラウマができたなど、深刻な事情がある方は関わりが怖く避けてしまう。こういった方々も出ていきたいという思いは持っていると思うので放っておいて良いわけではない。そんな人には対応できる専門家が時間をかけて関わるべきかとも思う。ただ、そうした人を待っては、活動をやりたいたちの活動が何も進めることができなくなってしまう。まずは集まれる人で活動をスタートさせていくのが良いと思う。そういったコミュニティを作っていく、特別な人たちも来られるように進めていけると良い。

## 6. 福祉のまちづくりアンケート報告

### ★ 資料番号8に基づき説明

委員長 今回の会議はここで時間となったため、ニーズ把握から見えたことを持ち帰りいただき、次回は基本目標を検討していく中で活動計画の取り組みも考え、だから「こういった目標設定をする」というようにして考えを整理したい。

事務局 次回の委員会は10月5日（月）13時30分から、今日と同じ会場で行いますので、よろしく申し上げます。

## 7. 閉会

社会福祉協議会常務理事より